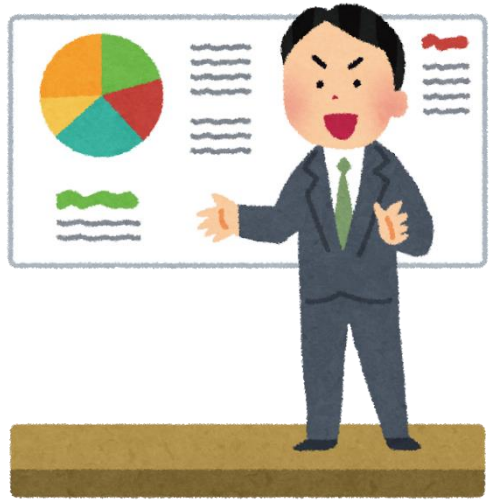
Science Switch History – Research (SSH-R)

～SSHを経験して、生徒はどの段階で変容したのか～



SSH-R ・ コンセプト

- 本校でも、卒業生が大学の修士課程や博士課程に進学し、大学や企業の研究職として従事するようになりました。その多くが「高校時代にSSHで先進的な科学技術に触れたこと、探究活動を経験したこと」をきっかけとして挙げてくれています。しかし、どの活動がきっかけで、どのタイミングで各人が変容を遂げたのか、取組ごとのアンケートだけでは把握が難しいのが実情です。
- 「生徒が変容するタイミング」が解れば、SSH事業を効率良く進め、より生徒の質の向上を図ることができます。
- こうした背景から、本校では指定Ⅱ期から、立命館大学の伊田教授の協力を得て、在校生の変容の分析を進めて参りました。Ⅳ期からは調査の範囲を卒業生にも広げるとともに、これらの調査をScience Switch History-Research（SSH-R）と総称し、研究を進めて参ります。

取組内容（予定）

① SSH変容調査

（対象：在校生（全員）

協力：立命館大学　伊田勝憲教授）

- 在校生を対象に質問紙調査を実施し、生徒の資質・能力への獲得意欲、青年期発達段階、啓成高校での学びに対する意識、キャリア意識を定量的に捉えます。
- SSH の学びの中で生徒たちの意識がどのように変容するか明らかにするとともに、Ⅲ期までの過去データと比較することにより、在校中の生徒像を把握し、指導に活かすための客観的資料としていきます。

取組内容（予定）

② ライフストーリー研究

（対象：3年生及び卒業生（抽出）

協力：北海道大学　田中孝平助教）

・ 個別のインタビュー調査により、本校の教育活動の成果を質的に評価し、現在のキャリアの契機や高校と大学での学びとの接続の様子について明らかにしていきます。

・必要に応じて北海道大学と連携し、LMS等に蓄積された学内外での活動成果と結びつけながら、卒業生の変容の様子を探り、本校での進路指導等に生かしていきます。

SSH-R が目指すもの

・ SSH事業をとおした生徒の変容を探ることは、本校に限らずSSH事業に関わるすべての関係者にとって積年の課題となっています。

・「SSH-R」は「SSH-Research；SSHの調査」とも表現できます。まさに、SSHの存在意義の本質に迫る調査を進めていくことができればと考えております。